



愛する信仰の家族みなさん！地上全ての主の教会は今日からクリスマスまでの四週間をアドベントだと呼ばれ、我々の為に来られた救い主イエス様を覚え感謝を持って待ち望む時期となります。実はアドベントという言葉には過去・現在・未来への深い意味が含まれています。アドベント(Advent)は‘来る’‘到着’を意味するラテン語‘advent us’から由来した言葉です。これは2024年前、実際この世に救い主としてイエスキリストがお生まれになり、実際来られた御誕を祝う意味です。そして、一度‘来られた’神の御子救い主イエスキリストが将来再び来られると言う再臨(マタイ24:36)の聖書の御約束通りに必ず‘再び来られる’主を待ち望む時の意味もアドベントには含まれています。その為、アドベントは再び来られる主を待ち望む時として、待降節(たいこうせつ)、待臨節(たいりんせつ)、降臨節(こうりんせつ)だとも呼ばれています。そしてアドベントには現在の意味も含まれています。つまり、2024年前だけではなく、‘今現在にも信じる全ての人々に来られ共におられる’イエス・キリストの意味も含まれているのです。今もイエス・キリストを受け入れ信じる全ての人々のうちに来られ、いつも共におられる「インマヌエル(我らと共におられる神)」という意味も含まれているのです。今年も今日から始まり、クリスマス主日までアドベント4週間!今も我らと共におられるインマヌエルの主イエスキリストに感謝と賛美を捧げ、主の御言葉と祈りを持って日々交わり、再び来られる主を共に待ち望みましょう！

“Christmas”だという言葉の意味はみなさんもよくご存知のようにキリスト(Christ)とマス(Mass)が合わせられた言葉であります。キリスト(Christ)という意味は旧約聖書で預言された油注がれた方・救い主を意味していますが、「油」は聖霊を象徴するもので、「油注がれた方」というのは、「神の霊・つまり聖霊によって任命された方」という意味があります。

旧約聖書では王、祭司長、預言者のみに油を注ぎ任命されました。なので、イエスをキリストと言うのは聖霊による、真の平和の王として、取り成しをして下さる真の大祭司として、神の救いの道であり、それを教えて下さった真の預言者として来られた救い主であることを意味する言葉であります。そして、マス(Mass)という言葉はラテン語“missa(ミサ)”から由来した言葉で訳すると“礼拝、敬拝”意味であります。ですから、クリスマスという言葉は“イエスをキリスト、救い主として礼拝する”意味になります。

イエス・キリストが実際お生まれになった初のクリスマス時に多くの人々たちの中で実際だれが、どのように迎え拝していたのでしょうか。

### まず、どんな人たちが来られた救い主イエスキリストを迎え、敬拝しましたか。

新約聖書の中でマタイの福音書とルカの福音書にはお生まれになったイエス・キリストに直接拝していた人々の内容が記録されています。

マタイの福音書には東邦の博士たちが輝いていた星について進んで来て、ついにお生まれになった救い主みどり子として来られたイエス様のところまで来て拝しました(マタイ2:1-12)

ルカの福音書では野宿で夜番しながら、羊の群れを見守っていた羊飼いたちが御使いの知らせ(きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。(2:11))を聞いてから、急いで布にくるまって飼葉桶に寝ておられるみどりごイエス様を探し当てて神をあがめ、賛美していた事が分ります(ルカ2:8-20)

そして、御誕生から八日を経てヨセフとマリアは、幼子イエス様を連れてエルサレムの聖殿に上った時、聖殿の中でシメオンとアンナはずっと預言され、待ち望んで来たメシアなる救い主がイエス様であることを知り、神の御名をほめたたえました。

ユダヤ人ではなかった東邦の博士たち、貧しかった羊飼いたち、神の御言葉と祈りを大切にす敬虔な信仰を持っていたシメオンとアンナまで、このようにいろんな人々がイエス・キリストがお生まれになった時、そのあかちゃんがキリストつまり、待ち望んでいた救い主である事を知り、礼拝を捧げられました。

彼らの共通点はあまりありませんが、ただ一つ、今の自分たちの罪、限界、大変な環境などから救って下さる真の救い主を切に待ち望んでいた人々であることが分りました。

ところが、当時彼らが礼拝し、拝んでいたみどりごイエス・キリストの姿の表は単なる普通の赤ちゃんにすぎませんでした。しかし、初のクリスマスにイエス・キリストを礼拝した人々はそのみどりごがメシアなるイエス・キリストである事を疑わず、確信していました。ここで我々は世に来られたその赤ん坊イエス様を迎え、礼拝をしていた彼らの姿を通して今日我らは共に学ばなければならない姿があります。

### 2.みどりごイエス・キリストを迎え信じて礼拝をささげた人々は

**①何かの利益を得るために御前に来て礼拝したのではありません。**

世の初のクリスマスにみどりごイエスを迎えられ、礼拝をささげた彼らは何ももらっていません。むしろ、東邦の博士らは高価な贈り物を持って来ました。彼らが住んでいたところは具体的にどこだったのか分かりませんが、東邦は一般的にペルシアもしくはバベロン(今日イランのところ、約1500km)を指しているの相当、遠くから来た可能性が高いです。ある聖書学者たちは東邦の博士らが星を目印(めじるし)におよそ2年ほど旅をしたのではないかと推測しています。しかも、ずっと星を見ながら動いて来たので、夜だけ動くことによりいっそう大変だったと思われま。相当の経費もかかったはずで。たくさん時間と金をかけて、遠くから来て、みどりごイエスに礼拝しましたが、実際もらったものは何もありません。人間的な観点から計算するなら、東邦の博士らがかなりの損をした人々に違いありません。

なのに、彼らはマタイの福音書2章10節で「その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。」と記されています。

東邦の博士らは損しながらも、犠牲を払いながらも、みどりごイエス・キリストに礼拝をささげた事を少しも惜しんでいなかったのです。むしろ、自分たちの生涯において一番の喜びと、ほこりとして覚えた聖書に証言しています。さらに、マタイの福音書2章11節「東方の博士らは、「それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。」

夜番をしながら羊を守っていた羊飼いたちも同じです。

天使たちが伝える知らせを聞いて「(ルカの福音書2章10-11節)御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。11今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」、急いで、ベツレヘムに駆けつけました。

しかし、彼らがベツレヘムに行くためには、しばらく自分たちが今まで大事にして来た羊の群れを野原におきっぱなしにして行くことになりません。ですから、野宿で夜番をしていた羊飼いたちが幼子イエス様を訪ね、礼拝をささげることは大変なことだったのに違いありません。

ここで、私たちが注目しておきたいことは、当時ローマの皇帝アウグストゥスによる全住民の登録をするようにという勅令が出されたので、ヨセフとマリアもベツレヘムにまで来たのです。なのに、なぜ羊飼いたちは各自の故郷に行かずずっと羊の群れを見守っているのですか。それは羊飼いの中では、自分の羊を飼っている人もいましたが、大体はしもべの低い身分の人たちが多かったからです。ですから、自分の羊ではなく、ご主人の羊の群れをしばらくにおいて行くと言うことはとって大変なことで決断と勇気、自分の損害となる覚悟までする必要がありました。羊飼いたちも、ご主人の羊の群れを置き離れて行く大きな決断と勇気、損害を覚悟し急いで行って拝した羊飼いたちであったことが分かります！

しかし、羊飼いたちは羊の群れを置いて、ベツレヘムのイエス様がお生まれになったところに急いで行って、救い主なる神の御子みどり子イエス様に始めて拝見し、礼拝をささげられる主人公たちとなりました！

羊飼いたちはみんな貧しかったので、東方の博士らのように、救い主に何も捧げる事が出来なかったですが、待ち望んでいた救い主を迎え入れ信じる信仰の心と感謝をささげたのではありませんか。

愛する信仰の家族のみなさん！羊飼いたちの姿を通して、羊飼いたちは聞いた神の御言葉に通り信じて、すぐ従う純粋な信仰と姿勢を持っていたことが分かります。そして、神様の関心(神様との関係の回復):身分・学歴・所有・能力等なく、信仰である！ことも教えられます。キリストを信じるためには、子どもであっても、年を老いても、学歴が低くても、所有している物が少なくても、生活が厳しくても、どんな仕事をし、どんな罪を犯した人であっても、何の関係もありません！だれでも！可能であることを教えられます。

そして、羊飼いたちは、自分たちで信仰を持って終わったのではなく、周りの人々に救い主がお生まれになられたことを告げ知らせたことが分かります！「ルカ2:17それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。18聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。」

我らも自分の信仰を持って終わるのではなく、救い主を分かち合い、知らせ伝えましょう！

彼らには目に見える何かをもらったものは何一つありませんでした。むしろ、はじめてイエスキリストを迎え礼拝を捧げるために、しばらく目の前の自分の大切だったものを下ろし、救い主の御前に入る事を最優先に、一番大切にしたいため、歴史上初めて御子イエス様に礼拝する人たちとなる祝福を受けたのです。

シメオンとアンナの場合も同じです。彼らは東邦の博士らのように遠くから来た人々ではありませんが、一生を来られる救い主を待ち望んでいた人々でした。シメオンは神を心から愛し、神の御言葉と祈りに専念し、聖霊の神に敏感で満たされ、神の聖殿中心の敬虔な信仰を持っていた人であって、アンナは結婚7年後、主人がなくなりやもめになって、84歳まで神の宮を離れないで、夜も昼も断食と祈りをもって神に仕えていました。

シメオンとアンナは幼子イエス様を見た瞬間、自分たちが今まで生きて来た人生の意味と理由がこの幼子にあったことを悟りました。そういうわけで、シメオンはこのような告白をしました。



## 「私の目があなたの御救いを見たからです。(30節)」

シメオンとアンナが生涯、イエス様を待ち望み、ついに直接礼拝を捧げられたのは、何かの自分がほしい祝福や、個人の願いをかなうためではなく、ただ待ち望んでいた神の救いに感謝し、信じて救い主のみを迎え拝していた彼らの姿こそ、今日我らも見習うべき、真の礼拝者の模範の姿ではありませんか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！アドベント4週間、今年のクリスマスに、そして、本日礼拝にみなさんはどんな心構えで来られ、参加しているでしょうか。みなさんは神様に礼拝を捧げる時、何を捧げていますか。もし、目に見える祝福を期待しながら、神様に自身の願い求めるばかりかなえられてほしい姿はないでしょうか。

2024年前、イスラエルのベツレヘムへ実際来られた救い主を直接迎え、信じて礼拝を捧げていた人々の姿に注目して見て下さい。彼らの姿を通して、真の礼拝は何なのか教えられます！

真の礼拝というのは、我らの救い主なるイエスキリストのみを信じ、迎え入れることです！礼拝する事を一番最優先にし、我らの大切なことを主の御前におろし、委ねて、共におられるイエスキリストに焦点を合わせる時であり、その御名をあがめることであります。キリストの御前に礼拝を通して、今もその救い主を受け入れ、信じる事により、神の救いが全ての人々に、そして自分に与えられていることを信じ、神の恵みに感激し、感謝を捧げることが真の礼拝の姿ではないでしょうか。

ですから、まことのクリスマスの礼拝というのは当然救い主イエスキリストの御救いと恵みに応答し、感謝と喜びあふれる礼拝として今年のアドベントの礼拝を御前に捧げましょう。

みどりごイエス・キリストを迎え信じて礼拝をささげた人々は、

### ②神の御言葉通り信じ、従うことにより神の御救いを体験しました！

初のクリスマスに礼拝をささげた人々の目に見えるイエス様の姿は、ただの馬小屋の飼葉の中布に包まっていたみずぼらしい赤ん坊でした。しかし、救い主イエスキリストに拝した彼らは今ではなく、これからその幼子イエス様よって人類を救おうとする神様の計画と摂理を見ていたことが分かります。どうやってそれを見通す事が出来たでしょうか。

東邦の博士らは、すでに神の御言葉通り信じていたので、遠くからメシアを見出し、直接御前に礼拝をささげることが出来たのではないのでしょうか。「マタイ2:2「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。

私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。」、「私には彼が見える。しかし今のことではない。私は彼を見つめる。しかし近くのことではない。ヤコブから一つの星が進み出る。(民数記24:17)」

もし、東邦の博士らに御言葉通り、世界を救う平和の王が生まれたと言う確信がなかったなら、あんなに遠いところから、毎日歩いて来て、礼拝をささげたのは考えられない事です。そして、羊飼いたちも布に包まれている幼子が人類を救う救い主であることを現れた御使いたちから聞いてから疑うことなく信じていたので、しばらく羊の群れを置いたまま、急いでベツレヘムに来て礼拝をささげることが出来たのです。シメオンもみどりごイエス・キリストを見て本文の30-32節で「私の目があなたの御救いを見たからです。御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。」と主をほめたたえました。

羊飼いたちも、神の御言葉に通り信じて、御言葉通り従う純粋な信仰と姿勢を持っていたので、救い主を拝見することが許されたのです。

目の前に見えていたのは単なる普通の幼子のようにでしたが、シメオンは“私の目があなたの御救いを見たからです”つまり、幼子イエスが人類を救う救い主である事を知る事が出来たわけです。そこにいたアンナも幼子イエスについて“エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った(38節)”つまり、84歳のアンナおばあさんはこの幼子こそがエルサレムの贖い主である事を人々に語りました。ですから、初のクリスマスに礼拝をささげた人々は現在の姿ではなく、これからさらになさる素晴らしい神様のご計画と摂理を信じ捧げたことが分かります。

もちろん、彼らは特別な啓示を受けました。東邦の博士らは輝いている星を見ました。羊飼いたちには御使いたちが現われ、シメオンとアンナは聖霊の指示がありました。

しかし、ここで、我々が注目すべきことは、実は空で輝いている星でしたが、東邦の博士らだけ見れたわけではありません。だれでも見れるように星が現われていましたが、その星の真の意味を知って訪ねた人は東邦の博士らだけでした。なぜなら、空をみあげない人は、どんなに星がかがやいてもその星を見ることはできず、当然神が表してくださったその物の意味もわからないでしょう。上を見上げる余裕すらなく、地にある物ばかりに自分の心も、視線も捕らわれ、人々に絡(から)まれている人々にはいくら神からのサインがあっても、神の祝福と救いの機会が与えられてもつかめる、見分ける力が期待できないのではないのでしょうか。

しかし、東方の博士たちは違いました。マタイの福音書2章2節に「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになります。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」と記録しました。ここで、覚えてほしいことは、当時東の地域つまり、中東地方には当時、星占い(ほしうらない)がとっても発達していて、星占いをする者たちは、当時の 権力と密接な関係がありました。東邦から来たその博士らが“メシヤ、救い主”を捜して来たと言う事は、自分たちにとって権力を得る事が優先でも重要でもなかったと言えるでしょう。これは言い換えると、当時多くの星占い師らが、権力を手に入れるために、権力者たちにへつらいを言う落胆した環境の中でも、新しい時代、神様の救いと恵みの時代の到来を待ち望んでいた人々が東邦の博士らだったと思われま。かりに、彼らが権力を得るために来たなら、自分たちが拝んだことに対するしるしや保証をもらおうとしたと思います。しかし、彼らは純粋に礼拝し、神様の指示通り、ヘロデ王にも知らせないで、密かに他の道に帰りました。

そして、みなさん、野宿の夜番をしていた羊飼いたちはどうでしたか？ルカの福音書2章13節によると「すると、突然、その御使いと一緒に、おびたしい数の天の軍勢が現われて、神を賛美した。」静かな夜に響く多くの天の軍勢の御使いの賛美声は回りにも当然もっとも大きく聞こえたはず。多くの天の軍勢と御使いの歌声の振動はきっとすごかったでしょう。御使いが羊飼いに現われて救い主の誕生を知らせた所とイエス様が生まれたところは、そんなに遠くなかった。当時、ベツレヘムに住んでいた人でも、軍勢の歌声を十分聞けたはず。そして、当時ベツレヘムは住民登録の勅令が出されていたので、ヨセフとマリヤが泊まるどころすら見つからないほど多くの人々が集まっていたはず。しかし、みなさん、ここであんまりにも不思議で、注目するところは多くの天の軍勢と御使いの賛美を聞いた人はただ少数の羊飼いだけでした。

なぜなら、当時ベツレヘムに住んでいた人々はローマの皇帝の住民登録の勅令によって多くの人々がベツレヘムに来ていたので、お金を儲けるのに必死だったかも知れません。あるいは遅すぎて寝てしまって聞いてなかったかも知れません。みんな自分の事しか考えられ、時間に、人に、物に捕らわれていたようです。しかし、自分の目の前の世の事ばかりに気が捕らわれた人々は多くの天の軍勢と御使いの歌声を聴く耳も、その姿勢もなかったため、結局素晴らしい神からの良い知らせを聞く事ができませんでした。欲張らず、夜遅くまで目を覚まして与えられた仕事に黙々と忠実に羊の群れを見守っていた羊飼いたちだけが多くの天の軍勢と御使いたちの賛美を聞いて、預言の通りにお生まれになった救い主イエスキリストに訪ねて来て礼拝を捧げる事が出来ました。

そして、幼子イエスがキリストである事実を聖霊は当時シメオンとアンナだけに知らせてくださいました。なぜなら、彼らは神を心から愛し、いつも神に仕え、御言葉と祈りを保って聖霊の神と交わっていた敬虔な人々だったからです。これを他に表現すると、聖霊の満ちし、知恵はだれにも与えられるわけではありません。東邦の博士らが星を見れたことや、羊飼いたちに御使いが現われたこと、シメオンとアンナに聖霊の知らせがあったことは決して偶然のことではありません。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！  
今日来られた幼子イエスに礼拝をささげた人々から学ばされる事が何でしたか。それはマタイの福音書6章31-33節の御言葉でまとめる事で出来ると思います。イエスキリストは信じ、従おうとする人々に“何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要である事を知っておられます。だから、神の国(神の統治・礼拝)とその義(神の御心・御言葉・神が喜ばれる事)とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。”言われたように、今までこの地上のものばかりに未練を置いたり、心が捕らわれていたならば、今日からもう一度謙遜にまず、神の国とその義とを求めることを神は望んでおられます。

聖なるキリストの御誕の良い知らせはまことに神様を愛し、神様の救いと恵みを求め、へりくだり整えられた者だれにも届きます。今年2024年のクリスマスを迎えながら、今も我々の周りにはクリスマスを正しくないままで過ごそうとする方々がたくさんいます。初のクリスマスに幼子イエスを迎え入れ信じて、礼拝をささげた人々のように、我々もキリストの御前に真の礼拝者となりましょう。神様から与えられた最高のクリスマスのプレゼントとなる救い主イエスキリストを改めて信じ受け入れ、幸いな日としてみんなで一緒に迎えられるように祝福します。

アドベント1週目、これから共にも共に救い主なるイエスキリストの御救いを心から喜び迎え、感謝と賛美しつつ、聖霊の力に満たされて共に礼拝しましょう。そして、まだ我々の周りにこの神の救いの地上最高の良い知らせを未だに聞いた事がない、知らない方々に喜んで分け与え、伝えるクリスチャンプレイズの全家族となりますように、主イエスキリストの御名によって祝福を祈ります。アーメン！